

## 1-1 Power Appsでできること

「Power Apps」とは、プログラミングやシステム開発などの専門知識がない人でも、簡単にアプリが作成できる開発ツールです。特に、Power Appsの「キャンバスアプリ」機能では、PowerPointのスライドを作るような感覚で、アプリをすばやく作成できます。ボタンや入力フォームなどのパーツをドラッグ&ドロップで画面に並べ、Excelのように関数を入力して動作を指定するだけです。このため、ITの難しい知識は不要です。

今までは業務アプリをひとつ開発するにも、ITベンダーに依頼し、数ヵ月以上の期間と高額の開発費用が必要でした。また、システム開発にありがちな「こちらの要望と違うシステムが納品されてしまった……」という事態が発生し、不便を感じながらも我慢して使い続けなければならない場合もあります。

一方でPower Appsは、業務を理解している現場の社員自らがアプリを作成するので、業務にフィットするという観点で最適です。また、日本企業に浸透しているOffice 365製品のPowerPointやExcelを使う感覚でアプリを作成できるので、プログラミング言語を新たに習得するよりも、アプリを開発できるようになるまでの学習時間が抑えられます。

このため、Power Appsを活用すると、現場主義で簡単にアプリをすばやく作成できるので、社内の業務効率化はもちろん、DX推進にもつながります。実際に、現場の社員によって作成されたPower Appsのアプリが、現場の業務改善やビジネス拡大に活用されています。活用事例として以下が挙げられます<sup>注1.1)</sup>。

### • 事例①：建設

新卒1年目の社員が3週間でPower Appsを活用したモバイルアプリを開

発・導入。建設現場の不具合箇所を、現場でスマートフォンを使って即座に登録し、グループ共有と進捗管理ができるようにした。今までは紙を使って手作業で行っていた作業がアプリで可能になり、かかっていた時間が1時間から5分に短縮され、約5億円もの価値を創出した

### • 事例②：食料品メーカー

Power Appsを活用したモバイルアプリを約25時間で開発・導入。営業担当者が商談に出向いた際、取引先から商品情報の提供を依頼された場合、担当者が手元のスマートフォンを使って確認し、その場で回答できるようにした。また、製造、販売、在庫などの業務を、パソコンを使わなくてもスマートフォンやタブレットで行えるようになり、業務効率の向上につながった

### • 事例③：小売

既製のSFA(営業支援システム)製品の定着・活用が進まない課題の解決に向けて、Power Appsのキャンバスアプリを活用し、現場が使いやすいシンプルな業務アプリを開発・導入。機能を現場が必要とするものだけに絞ったことで現場の営業管理が楽になり、導入済みのSFA製品と比較して大幅なコスト削減にもつながった

このように、業界や業種、企業規模にかかわらず、現場DXを推進するデジタルソリューションとして、Power Appsはさまざまなビジネスシーンで利用されています。

注1.1) <https://customers.microsoft.com/ja-jp/home>